

□10月2日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版
「キリストと共に過ごせる時間」ヨハネ12:1～8

今回私が気づかされたことがあります。それはマリアが「イエス・キリストがこの後十字架にかかって死なれる」ことを霊的に悟って、この行いをしたのではないのではないか…ということでした。マリアは確かに「神の言葉に耳を傾け、神の御心を探り求められる」人だったと思います。でも「この時に」、高価なナルドの香油を注いだ理由は「兄弟ラザロを救って下さった感謝をイエスに表すため」そして、「イエスにおいて他にわたしの救いはない」という信仰を表すために「油注ぎ」をしたのだと考えます。それ以上以下でもない。あくまで「今このとき、神の子イエス・キリストのために何をすべきかを良く祈ってした」それが「イエスに油注ぐ」ということだったが、そこに「イエスの葬りの準備というつもりはなかったのではないか」と思わされたのです。

しかし！葬りの日が何時か分からなかったとしても、この時マリアがイエスへの信仰と感謝をもって素直にした「行為」を、イエスは「葬りの準備をしてくれた」という言葉をもって感謝して受け取られたのです。人間の目から見て非常識な行動だけれどもマリアが、この時神の子のために何をなすべきか、一生懸命祈り求めてした行為が「イエス・キリストの十字架による救いの業」のために用いられたのです。

8節でイエスは「わたしはいつも一緒にいるわけではない」と言われます。もちろんイエスはどんな時も私達と共にいてくださいますが、この言葉には「今のこの時を大切に生きなさい」「この時、何をすべきなのかを神にしっかり祈って行動しなさい。」という意味が込められていると感じます。人間の評価に流されないで、「マリアのささげものを善しとして下さり、御業に用いられたキリストと神に心を向けて」今この時に、なすべきことを成してまいりましょう。(終)